

政友クラブ  
成田市議会議員

おだか ゆうか

**小高 夕佳**

小高夕佳 1992.2.18生  
立命館大学政策科学部卒  
成田市議会議員(1期目)  
教育民生常任委員会 副委員長  
JR成田駅西口・赤坂センター地区整備調査特別委員会  
広報広聴委員会 全国若手市議の会 関東若手市議の会  
成田市消防団女性部 成田市商工会女性部

【発行】政友クラブ小高夕佳 【連絡先】議会事務局内 花崎町760 TEL.20-1570 FAX.24-0336



## 公共交通に満足している人は半数以下! 人口減少社会においても利用しやすい交通網を!

市内公共交通に対する市民調査の結果、公共交通に満足している人は43%という結果でした。モータリゼーションの進展や人口減少などによって、地域公共交通の利用者は減少傾向にあり交通事業者の独立採算では維持することが困難となった地域が多くなっています。一方で高齢化の進展によって、免許返納後の移動手段が求められるなど、地域公共交通の必要性は高まっています。このような社会情勢の中においても従来の公共交通サービスは維持しつつ、交通弱者の生活交通の確保を考慮しながら各々地域の実情に即した公共交通網が求められています。また時代と共に変化する生活様式に合わせ、公共交通に求められる姿も変わりゆく必要があるのではないのでしょうか?住民の移動手段の確保について地方自治体の果たす役割が大きくなっており、各自治体で特色のある様々な取組がなされています。そのような中で成田市においても令和4年度から令和9年度までの6年間の計画が策定され、循環型バスの運行の検討などが盛り込まれました。

## 成田市の現状についてどのような意見があるの?

市内周遊バスの復活要望を含め、コミュニティバスやオンデマンド交通の本格運行の検討など様々なご意見を頂きました。バスの運行ルート含めバス停の設置場所等についても丁寧に検討していかなければいけない地域があると認識しています。市民生活の充実には欠かせない重要な課題であり、観光振興の面からも成田市がしっかりと特色をもって取り組むべき課題であると捉えています!

## 他の自治体ではどのような取組があるの?

シェアサイクルの活用やICTを活用したバスの運行、オンデマンドバスや免許を自主返納した高齢者に対して一定額利用料を補助するといった取組もみられます。自動運転の小型バスが運行している自治体も!既存のバスやコミュニティバスの運行ルートから外れている個所が多くあるためオンデマンドバスの検討等は本市においても有効であると考えます。令和4年3月定例議会において、運転免許証を自主返納された70歳以上の方に対して1万円分の交通系ICカードを交付する事業が決まりました。

## 一般質問

令和3年12月定例議会

## ポストコロナ時代の観光業、商工業について

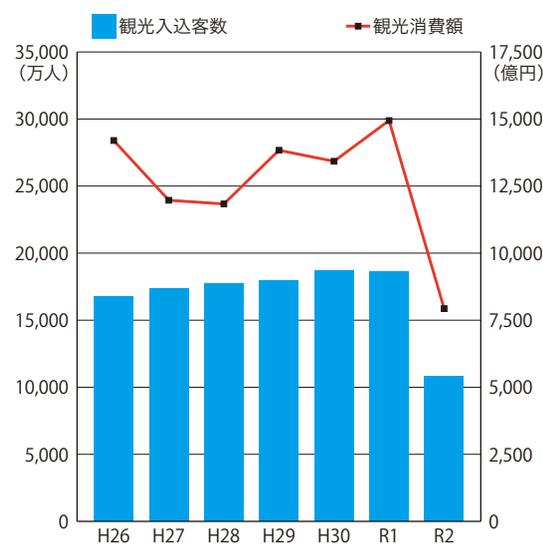
## 農業を観光資源に! 近隣都市に負けない積極的な企業誘致を!

令和3年度12月議会において商工業、観光業について一般質問を行いました。コロナワクチンの三回目の接種も始まり私達の生活様式は大きく変化したものの、このような状況の中でも徐々に以前の生活を取り戻そうとしています。成田市においても成田国際空港の更なる機能強化、圏央道・北千葉道路などの広域交通ネットワーク整備など本市を取り巻く環境は大きく変化を遂げようとしている中で今後の市の成長戦略を伺いました。



1. 国は観光の高付加価値化を推進、観光消費額の拡大を目指している
2. GOTOキャンペーンについては感染拡大が落ち着いた地方では一定の効果あり
3. 2024年以降徐々にインバウンド観光客数は回復予定
4. コロナ後に観光に訪れたい国ランキングでは衛生観念の高さから日本がトップに
5. コロナ禍においてアウトドア人気が高まっている

千葉県観光消費額と観光入込客数



# ポストコロナの観光は？ 体験型観光で観光消費額の拡大を！

**Q** 成田市の観光業について  
現状と今後の課題は？

**A** 夜のにぎわいが少ないことや、地域間連携が足りないなどのご意見をいただいています。それに対する解決策としてイルミネーションやライトアップイベントの開催、観光タクシーやバスなど周遊性のある交通整備の推進などの意見がありますのでそれらの意見は、計画を策定するうえでの参考とさせていただきます。



**Q** 農業を観光資源とすることについて市の考えは？

**A** コロナ禍においては観光客や観光消費額が減少していることから、観光消費額の拡大に向けた取り組みは大変重要であると認識しています。また、成田国際空港株式会社や周辺自治体と協力し、国の実証事業として新たな観光コンテンツの造成などを行っております。その中で、新生成田市場の活用や農業体験、地域の食文化、観光需要の回復を見据えた観光資源の掘り起こしを行うなど、今年度中にモニターツアーを実施する予定です。今後も、農業体験などを含めた観光資源の高付加価値化や滞在時間の延長など、観光消費額の拡大につながるよう取り組んでまいります。



北須賀の美し農園(うましのうえん)で農業体験

「体験型農園」や「農家宿泊体験」なども観光資源として注目されています。



## 商業について

**Q** 令和4年度から6年間の素案が策定されたが、成田空港を中心に商工業に資する環境の大きな変化は民間にとっても自治体にとっても経済効果が見込まれる。その為企業誘致に際し、地域間競争が大変激しくなっているといったような声もあるが策定会議において実際どのような意見があったのか。

**A** 策定会議において頂いた意見としては、「成田市への進出を希望する企業は多い」、「市内への立地を希望する企業があっても工業団地に空きがなく、立地に適した産業用地の情報がない」など、産業用地に関するものがございました。

**要望** 企業が成田市に進出を希望しているのに土地がない。その結果周辺都市へ流れてしまうというのは本市にとって大きな損失である。空港周辺は優良農地が多く、現在空港周辺地域における国家戦略特区の規制緩和策の提案が行われているが成田市としても引き続き積極的に働きかけ地域間競争を勝ちぬいて頂きたい。

**Q** 現行計画は平成26年度からあるにも関わらず、生活支援型産業振興についてはここ最近ようやく取り組まれたように感じている。答弁の中でも分かるように市民の方々の強い要望があることは十分に認識されているとのことだと思うが、今後市はどのように取り組んでいくのか。

**A** 生活支援型産業の振興を図るため、引き続き、新たに参入する事業者や既存事業からの転換・多角化する事業者に対して、商工団体や関係機関と連携して、経営を支援するとともに、創業支援補助金や中小企業資金融資制度による事業資金の貸し付け及び資金融資を受けた事業者への利子補給を行うことにより、資金面からも支援をしてみたいと考えている。

**要望** 生活支援型産業というのは一般的な事業とは意義や目的も変わる為、既存の支援事業のみで産業振興を図っていくというのは難しく、そのために今まであまり動きがみられなかったのかと感じている。是非既存の支援事業とは別に生活支援事業振興に対する支援事業などの検討をお願いしたい。

### 生活支援型産業とは？

超高齢化社会に対応するため、ヘルスケア産業介護、福祉、子育て支援サービスの育成、安全安心な住宅づくりオンデマンド交通の利用促進をはじめ市民ニーズにきめ細かく対応するサービス産業のこと。今年度新たに始まった、食品の移送販売サービスもこれにあたる。商業振興計画に対する市民アンケート調査では「安心して暮らせる生活支援サービス産業」の振興を期待するとの回答が最も多くあり、市民の声としても生活支援型産業の振興をはかることはとても重要であると考えています。

小高夕佳公式アカウント  
情報発信中！



公式LINE



Instagram